



大学における結婚・出産を含めたキャリアパス

～ロールモデルを探して～

東京医科歯科大学大学院小児歯科学分野 助教

茂木 瑞穂



■ 略歴

- 1999年 鹿児島大学歯学部卒業
- 2001年 東京医科歯科大学歯学部附属病院研修医修了
- 2005年 東京医科歯科大学大学院医学総合研究科博士課程修了
- 2005年 東京医科歯科大学大学院小児歯科学分野 医員
- 2006年 東京医科歯科大学大学院小児歯科学分野 助手
- 2007年 東京医科歯科大学大学院小児歯科学分野 助教

平成19年、閣僚、経済界・労働界の代表等からなる「官民トップ会議」において、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」が策定されました。ワークライフバランスが実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義しています。米国のコンサルティング会社 Work-Life Balance Mastery & Motivation Mastermind が行った 1,789 人の労働者を対象に実施した調査によると、ワークライフバランスの実現を「不可能」と答えた割合は、女性労働者で 87%、男性労働者で 89% にのぼったという興味深いデータがあります。

平成25年度版男女共同参画白書(内閣府)によれば、女性の年齢階級別労働力率いわゆるM字カーブについては、以前に比べて浅くなっているようですが、女性の雇用形態別内訳を教育別に見ると、高校卒までの女性は、結婚・出産期に一旦離職した場合も、非正規雇用で再就職する傾向があるのに対して、短大～大学・大学院卒の女性の再就職する割合は相対的に少なく、さらに日本における研究者に占める女性の割合は、14.0%にとどまっており諸外国と比べて低い(英国38.3%、米国34.3%)と報告されています。

日本初のママさん宇宙飛行士である山崎直子さんが、スペースシャトルの搭乗が決まった際の記者会見にて、家庭と仕事の両立について質問され、「家庭と仕事と、その都度何を優先させるか考えてきた。今も毎日が試行錯誤です。」と答えていました。その際、私は2人目を妊娠しており、こんな立派な方でも私と同じ悩みを持っているのだと勇気づけられたことを今でも鮮明に覚えています。

そこで、今回私は、まだ志半ばの人間で後進の皆さんにアドバイスができるほどワーク・ライフはバランスが取れていませんが、産休育休が取得しやすい職場環境とは言えない医師や研究者、一級建築士、SEなどの専門性を持ったワーキングマザーの友人達との3つの合言葉「育児は育自」「馬から降りない」「壁ではなくハードル」をご紹介したいと思います。そして、今までの大学でのキャリアパスをお話することが、少しでも皆さんの小児歯科医としてのキャリアプランにおけるヒントになれば幸いです。



「私にしかできないこと」

とき歯科 (青森市)

土岐 志麻



■ 略歴

- 1994 年 北海道医療大学歯学部卒業
北海道大学小児歯科学講座入局 (研修医)
- 1999 年 北海道大学大学院歯学研究科歯学専攻博士課程修了 (歯学博士)
北海道大学小児歯科学講座 助手
- 2000 年 青森市で開業 (とき歯科)

日本小児歯科学会専門医指導医
日本小児歯科学会 理事
日本小児歯科学会地方会副会長 青森県代表幹事
全国小児歯科開業医会理事 地域支援委員会委員長
日本大学歯学部兼任講師

人生の「岐路」に立たされた時、いつも「私にしかできないこと」を選ぶようになってきました。

卒後の研修先を選ぶにも、怖がりの私だからこそ、子どもたちへ恐怖心を与えない治療ができる。だから小児歯科に進むしかない! (思い込み) と思い、結婚するときも、この人には私しかいない! (大きく出た) と思い、開業するときには、小児歯科専門医が一人もいない青森市の子どもたちを幸せにしなければ! (これは本当) と主人のふるさと、青森へ。

そして「私にしかできないこと」の決定版は「私という人を生きる」ことです。自分自身が幸せでなければ、人のことを「おもいやる」ことはできません。どんなに忙しくても、自分の時間は大切にしています。9 歳、11 歳、13 歳の 3 人の子を育てながら、やりたいことがたくさんある私の人生。自分を大切に充実した人生を送るコツはなんだと思いますか? それは周りの人の支えを得ることです。これまでの人生でもとてもつらいこともありました。その時、たくさんの人に支えられ、そのおかげで私はとても幸せです。これから、いろいろな岐路に立たされる女性歯科医師のみなさんにも幸せになって欲しいと願っています。それには、周りのどんな支えが必要なのでしょう。

また、私の病院は、12 名の常勤歯科衛生士 (うち 6 名小児歯科学会認定衛生士)、3 名の受付が勤務し、院長である主人だけが男性という女性社会です。私が働きやすい職場は女性スタッフが働きやすい職場になります。働きやすいと笑顔でいっぱいになり、患者さんも集まってきます。女性歯科医師として、どのように支えられ、どのように支えて行ったらいいのか、みなさんと考えてみたいと思います。



～私たちを含めた女性歯科医師の置かれている現況～

福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野 講師

馬場 篤子



■ 略歴

- 1990年 福岡歯科大学歯学部歯学科卒業
- 1994年 福岡歯科大学大学院歯学研究科歯学専攻博士課程（小児歯科学）修了
- 1994年 福岡歯科大学附属病院 医員（小児歯科）
- 1994年 福岡歯科大学 助手（小児歯科学講座）
- 2001年 福岡歯科大学 助手（成長発達歯学講座成育小児歯科学分野）
- 2005年 福岡歯科大学 講師（成長発達歯学講座成育小児歯科学分野）

近年、歯科医師国家試験合格者の女性割合は40%を超え、歯科医師総数に対しての女性の割合はますます増加しています。現在、日本小児歯科学会全会員のうち約40%以上を女性が占めており、日本小児歯科学会が女性小児歯科医師の活動を取り巻く諸問題に取り組むことは、学会の存続に関わる重要な問題と思われます。

そこで日本小児歯科学会は、女性小児歯科医師を支援するために平成22年度に女性小児歯科医委員会を新設しました。まず委員会は、女性会員を対象にアンケート調査を行い「継続就業には、仕事と育児との両立をサポートする事業が重要で、学会大会での託児室が責務である」という結論を得ましたので、平成25年度から各地方会大会開催時において託児所開設・運営の支援を始めました。また、日本小児歯科学会での役職等への女性参画が少ない現状を鑑みて、今後数値目標を定めて活動展開をする必要性が提案され、「小児歯科学会での男女共同参画の推進」をテーマに東京オリンピックに合わせて2020年までに理事・評議員・各種委員会委員あわせて30%は女性小児歯科医が参画すること、就業支援に小児歯科医バンクの設立を目標に活動をしております。

今回私は、現在女性歯科医師の活動を取り巻く諸問題への対応について、本委員会の活動状況を含め、日本歯科医師会や歯学部同窓会・校友会、各女性歯科医師の会が取り組まれている活動などについて、短い時間ではありますがご報告したいと思います。